

顕彰事業

ジャパンファウンデーションでは、「国際交流基金賞・国際交流奨励賞」および「国際交流基金地域交流賞」を設け、国際交流活動に貢献があり、今後ますます活躍が期待される個人や団体を対象に顕彰を行なっています。

2004年度 国際交流基金賞・国際交流奨励賞

1973年以来毎年、学術、芸術その他の文化活動を通じて、日本に対する海外の理解もしくは日本人の対外理解を深め、国際相互理解の促進において顕著な貢献のあった個人または団体に対し、「国際交流基金賞」(副賞500万円)および「国際交流奨励賞」(副賞200万円)を授賞しています。

「国際交流基金賞」は、長年にわたり特に顕著な貢献のあった個人または団体に、「国際交流奨励賞」は、獨創性・先駆性に富み、将来にわたる活躍が期待される個人または団体に贈られます。また「国際交流奨励賞」は、国際交流基金の事業の柱である「文化芸術交流」、「日本語教育」、「日本研究(知的交流)」の3分野に対して贈呈されます。

ジャパンファウンデーション外部の有識者による推薦・選考の結果、2004年度の受賞者は以下の4名に決定しました。

国際交流基金賞



穂吉 敏子(あきよし としこ)氏

ジャズピアニスト・作曲家【日本】

ジャズの分野で演奏家、作曲家およびバンドリーダーとして多大な業績をあげるとともに、音楽活動を通して、20世紀以降に人類が置かれた状況を問い、平和と協調のメッセージを世界に発信してきた功績に対し、国際交流基金賞を受賞。1999年には、ジャパンファウンデーションの派遣助成を受け、南米を巡回公演したほか、2003年、リンカーン・センターでビッグ・バンド結成30周年記念公演を開催。2004年には、セクステットでの来日公演を果たしました。

国際交流奨励賞



文化芸術交流賞

ジェームズ・クワント 氏

シネマテーク・オンタリオ シニア・プログラマー【カナダ】

北米地域において、ほかの文化圏、特に日本の映画の上映会や出版物の刊行を通して、日本の優れた映像文化の研究と紹介に顕著な業績をあげてきた功績に対し、国際交流奨励賞・文化芸術交流賞を受賞。1990年より、シネマテーク・オンタリオの上映企画を担当し、1991年、ジャパンファウンデーションの招へいにより訪日を実現しています。



日本語教育賞

李 徳奉(イー・トクボン)氏

同徳女子大学校 外国語学部教授【韓国】

日本語教育学の分野において先駆的な業績をあげ、多くの後継者の育成に努めるとともに、韓国日本学会会長などの要職を歴任。韓国における語学教育政策の形成にも優れた寄与を行なってきました。韓国と日本人々の相互理解促進に大きく貢献したその活動により、国際交流奨励賞・日本語教育賞を受賞。2001年より明海大学客員教授を兼任。



日本研究賞

高良 倉吉(たから くらよし)氏

琉球大学法文学部教授【日本】

アジアという広い視野から沖縄の歴史を考え、海外の研究者とのネットワークの構築を通し、先駆的な研究活動を展開。アカデミズムの枠を超えた広範な層に影響を与え、日本の将来像を考究するうえで多くの示唆に富むこれらの成果により、国際交流奨励賞・日本研究賞を受賞。沖縄県立博物館主査、浦添市立図書館長を経て現職に就任。

2004年度 国際交流基金地域交流賞

本賞は、地域に根ざした国際交流の重要性が広く認識されたことを受けて、1985年より「国際交流基金地域交流振興賞」を設けています。2004年度、第20回目を迎えるとともに、地域における国際文化交流活動が発展し、多様化していることから、賞の趣旨を見直し、名称を「国際交流基金地域交流賞」と改め、副賞を150万円から200万円といたしました。単なる交流や相互理解を超えて、地域の革新や活性化に繋がる国際的な地域間交流や文化交流、相互理解の促進に貢献された団体・個人に授賞しています。

2004年度は、マスコミ、国際交流団体、自治体など、各界から寄せられた125件もの推薦をもとに、書類審査、現地調査、選考委員会を経て、地域性、先導性、継続性、自発性、相互性などの選考基準に照らした厳正な選考により、受賞者を決定しました。

受賞団体



国際交流を通じた地域づくりと多文化共生社会実現への試み 戸沢村国際交流協会

山形県戸沢村 / 芳賀 欣一 会長 / 1990年設立

戸沢村は、1985年より途上国向けの農業指導などを行なっているアジア学院(1989年度受賞団体)との交流を始め、韓国農村との草の根交流も積極的に行なっています。1990年には、戸沢村国際交流協会(当初は国際交流塾)を結成。自治体を取り組んだ農業後継者対策としての国際結婚を進めるなど、言葉や文化の違いを超えた多文化共生社会の実現を目指しています。現在は、韓国農村との農業技術や食文化の交流、児童の相互交流が行なわれ、両地域に共通する課題の解決を図っています。地域の基幹産業や食文化の交流から出発し、「戸沢流キムチ」や「戸沢流冷麺」など、新たな特産品のための生産組織化、日韓友好のテーマパーク「高麗館」での韓国文化の紹介への協力を通じ、地域経済の活性化や地域ブランドの確立に貢献しています。



市民ボランティアの力によるカンボジアでの学校建設 特定非営利活動法人セカンドハンド

香川県高松市 / 新田 恭子 会長 / 1994年設立

市民から無償提供された衣類や生活用品を、無料もしくは格安で貸借した店舗で販売し、全収益をカンボジアでの学校建設などの海外支援に充当。現在では、カンボジアに11の小学校、2つの医療施設、職業訓練所、孤児院が建設されています。販売や物品の仕分けなどの活動は、すべて無償のボランティアが行なっており、当初、1軒の小さな店舗から開始した活動が、次第に賛同者を集め、来店者にも「ショッピング」という気軽な行動が、海外への支援に繋がるという意識が共有されるようになりました。2003年には、県内の中高生たちが、自主的に「学生部小指会」を結成し、1年間で120万円の募金を集め、カンボジアの中学校の建設に大きく貢献。地元学生や地域の方々にとって、国際交流の活動が全国に広がっています。



長崎ならではの留学生が主役の国際交流 長崎国際交流塾

長崎県長崎市 / 牛嶋 洋一郎 塾長 / 1992年設立

1992年、長崎市民と在住外国人が日常的な交流を行なうことを目的に、長崎市が地域活性化事業の一環として創設した「長崎伝習所」の一つの塾として発足。その後、「長崎国際交流塾」として、ともに暮らす隣人同士の「交流を日常化」させることにより、多文化共生社会の実現を目指して活動しています。1997年、長崎市より依頼を受け、「東山手地球館」をオープン。留学生やその家族が日替わりでお国自慢の料理を提供する「ワールドフーズレストラン」を運営するほか、学生や修学旅行生を対象として、国際理解体験学習を実施しています。2003年より、留学生が長崎市内を案内したり、自宅に招き母国の文化を紹介する「逆ホームビジット型国際交流プログラム」を企画・実施するなど、留学生たちが主体となって活動しています。